

# 仙北市読書感想文コンクール表彰式

平成30年度仙北市読書感想文コンクール（仙北市教育委員会主催・角館図書館後援会、(株)新潮社後援）が行われ、応募総数147点の中から仙北市長賞小中学校の部に若生美空さん（松木内中学校2年）、高校の部に田口芳美さん（角館高校1年）が選ばれました。

2月17日には、仙北市総合情報センターで表彰式が行われ、入賞者に賞状と記念品が手渡されました。仙北市長賞受賞作品について、それぞれ原文のままご紹介します。

## 仙北市長賞 小中学校の部



『そうじの神様から学んだこと』  
松木内中学校2年 若生 美空

「薬剤師は病院での仕事に比べれば、少々地味だけど私たちは誇りをもってやっていますよ。」

これは職場体験でお世話になった〇〇薬局の薬剤師さんの言葉だ。この時、私の脳裏に最近読んだ本に登場するある人物の姿が浮かんできた。その人物は、デイズニールランドで夜、清掃員をしている皆川である。彼は、まじめで仕事熱心ではあるが、自分の仕事に誇りをもてずいた。

その皆川が仕事を放棄しようとしたのだ。そこにはある理由があった。それは、彼の娘幸子が幼かった頃にさかのぼる。当時、皆川はビルの清掃員をしていた。何もわからない幼い幸子は、オフィス街を歩き交う大勢のサラリーマンを見て、「お父さんもああいう格好をしてほしいな。」とつぶやく。何気ない娘のその言葉が彼の心に深く突き刺さっていたのだ。大人になった娘に彼は、今の仕事は皆を管理する立場である「スーパーバイザー」だと嘘をついていた。それは幸子に恥を欠かせないための嘘だったが、その一つの嘘が後々皆

川を苦しめることになる。幸子が婚約者を紹介するために大晦日に父に会いたいと言うのだ。清掃員をしている皆川は、その姿を見せたくないため、かたくなに「会わない。」と拒み続ける。実は大晦日は来場客数が多いと予想されるため、夜だけでなく昼も仕事に出るようにと上司の金田に言われていた。皆川の嘘が自分を思いやっていたのだったことを母から聞かされた幸子は知らず知らずのうちに父を傷つけていたことを後悔する。本当は仕事熱心で誇らしく思っていた幸子だった。互いに相手を思いやっていたのに気持ちのすれ違いに私はもどかしさを感じながら読み進めていった。

大晦日当日、前から彼氏をデイズニールランドにつれて行くと言っていた話を幸子から聞いていた皆川は、二人に見つからないように帽子を深くかぶり、気を重くしながら仕事をしていた。そんな時、一本の無線が入る。来場者の一人が大事な婚約指輪を無くしてしまったという。皆川もその捜索に加わることになるが見つかからない。もう無駄だと諦めようと弱音を吐いた時、「皆川さん、諦めた時が限界なんです。」と金田に諭される。金田は『そうじの神様』と言われているチャック・ボヤージン氏の言葉を引き合いに出し、自分もかつて「ダメだと思っても、信じる心を共有することで限界

を超える時がある。」と教えられたのだと話す。皆川はその言葉にはっとさせられる。「思い起こせば、いつも自分で『限界』を決めていた気がする。ここまでするのだからもう充分だろう。」と。

彼は気を取り直すと、もう一度指輪の捜索を始め、ついに指輪を発見する。帰り際、来場者が感想を綴るノートが皆川の目に入った。そこには、『お父さんの白いコスチューム姿が一番好き。幸子より』の文字。この時、もしかすると、皆川より私の方が先に涙があふれてきていたかもしれない。それほど私は感動で胸がいっぱいだった。父には今の仕事を誇りをもってほしいという幸子の願いと父への深い愛情が伝わってきたからだ。実は見つかった指輪は幸子の婚約者か、この日に幸子に渡すつもりでいた大事な指輪だった。私は、この奇跡にまた涙腺が緩んでしまった。

私自身、この話から多くのことに気付かされた気がする。夢の国デイズニールランドでは舞台で華やかなパフォーマンスをしたり、パレードで盛り上げたりしながら注目されているキャストたちがいる一方で、裏方に徹して来場者が気持ち良く時間を過ごせるように隅から隅まできれいに掃除をし、頑張っているキャストたちもいるのだ。

世の中には、多くの職種が存在する。前面に出て、華やかで目立つ仕事もあるし、地味ではあるが、陰でその人たちを支えながら成功に導いている人たちもいる。私は現在中学二年生。職場体験をしたり、進路学習で上級学校を訪問したりしながら自分の将来について考え始めている。しっかりとした目標を定めるまで、もう少し時間がかかりそうだが、いつか社会に出た時、華やかで表の仕事に就いても、裏方の仕事に就いても胸を張ってその仕事に誇りをもち続けたいと思う。

世の中には、どの仕事か上とか下だとかという区別などないと思う。それぞれの仕事がなくしてはならないものであり、この社会を支えているのだと思う。

これから、私自身、いろいろな壁にぶつかってもいい。そして、途中で投げ出したいという心の弱さが出てくるかもしれない。そんな時、金田が『そうじの神様』から学んだ「あきらめたときが限界」という言葉を思い出したいと思う。そして、限界を自分で決めず諦めず何にでも挑戦し続けたい。

▼読んだ本 『デイズニール そうじの神様が教えてくれたこと』 (SBクリエイティブ株式会社)

からでしょうか。それは私にも分かりません。飢餓で苦しんでいる人がいても食べ残す人がいます。何で残すの？ときかかれると苦手だから、としか言いようがありません。「もしもたくさんの人がこの村を愛することを知ったなら、まだ間に合います。人々を引き裂いている非人道な力からこの村を救えます、きっと。」本にはそう書かれています。今の私には飢餓に苦しむ子供達を救う術がありません。せめて募金をして、その子供達が救われるのを願うくらいです。しかし、そのことを幸せに暮らしている全員が募金をして願うたらどうでしょうか。世界全体を救うことはできなくても、今よりもっといい世界になると思うし、救われる人も増えると思います。そうならば世界は少し変わるかもしれません。このように、今の私ができることは少ないけれどこれからの世界のことを知って、いつか必ず、自分が行動できるようにになりたいです。そのためにも頑張るべきことをしっかりとやって、少しでも世界を変えていきたいです。

▼読んだ本 『世界がもし100人の村だったら』 (マガジンハウス)

## 仙北市長賞 高校の部



『私が世界のためにできること』  
角館高校1年 田口 芳美

日本人が豊かで恵まれている、ということとは大多数の人が知っていると思います。普段の生活でそれを意識しなくても、ニュースなどで飢餓に苦しむ人や、空爆で命が危険にさらされている人をよく見ます。私も漠然と自分は幸せだ、など思っていました。しかし、実際に貧しい人がどれほどいるのか、飢餓や病気に苦しむ人はどれくらいなのか、といった具体的な数字は分かっています。

この本はそんな私の知りたいという気持ちに添えてくれました。百人のうち五十二人が女性、四十六人が男性……から始まり、様々な数字が出てきました。私が驚いたのは、十人が同性愛者ということです。私の学年は二百十人の生徒がいますが、そのうち二十一人が同性愛者という計算になります。今の時代ではまだ同性愛者に偏見を持つ人が多いですが、それも見直さなければいけないと思いました。また、大学に行っているのが一人というのも意外でした。私は、これから大学へ進学したく、勉強していますが、

もし行けたならそれが凄いいことであると心に留めておきたいです。百人のうちの十人が栄養不足で一人は死にそうですが、十五人は太りすぎ、富を六人が五十九パーセントを占め、二パーセントを二十人が分け合っています。コンピュータを持っているのは二人、しかし、十四人は文字が読めません。

私は、日本は本当に恵まれているなと改めて気付かされました。自分は幸せな生活を送れている、命が危険にさらされていないこと、自分がたさを感じました。自分はわがままで何度も思ったことがあり、本当にその通りなのですが、貧しい人達のためにできることをしたいと思うこともありました。だからそんな人達のために将来は国際的なことを学び、それを職業にしたいと思っています。

世界には学校に行けない人がたくさんいるから学校へ行きなさい、世界には食べたくても食べ物食へられない人がたくさんいるから残さず食べなさい。これは小中学校の頃に親や先生からよく言われた言葉です。私は給食は残さず食べただけで学校に行きたくないと思ったことが何度かあります。どうして早起きしなればならないのか、なぜ数学は勉強しなければいけないのか、なぜスマホばかり使っているといけないのか……。小中学生の頃の私はこのような疑問ばかり抱いていました。勉強していれば当然好きな教科、嫌

いな教科が分かれると思います。そのため勉強が好きだという人もいて不思議に思ったことがあります。でもそれは、自分達がこのように恵まれているから好きだ、嫌いだと言えないのではないのでしょうか。結局は親や先生が言っていることに納得し、一生懸命勉強しています。

たくさん読んだ感想欄でも、「この本を読んで自分は幸せだと思った。」「恵まれていると実感したから感謝しながら生活したい。」と書かれていることが多いですが、実は思っているだけで、行動に移している人は少ないのではないかと思います。なぜなら、もし、みんながそう考え、行動しているなら、生活に苦しんでいる人はもっと少なく、ニュース等で報道されることもないはずだからです。自分より不幸な人がたくさんいるんだなあ、かわいそう……。という安心感を持っている人の方が多いいのではないのでしょうか。もしくは今の時代はそのような安心感を求めている人が多いのかもしれない。

私はこの本が伝えたかったことについて考えたとき、「たとえあなたが傷ついていても傷ついていないかのように愛すること」は私には出来ないと思います。この言葉は本の中に出てきた言葉です。この言葉から、傷ついた人、傷ついたら人を憎んでしまふことの方が多いいんじゃないか、幸せだからでしょうか。わがままで

審査結果は、8ページに掲載しています。